



特定非営利活動法人フィリピンナガイサ

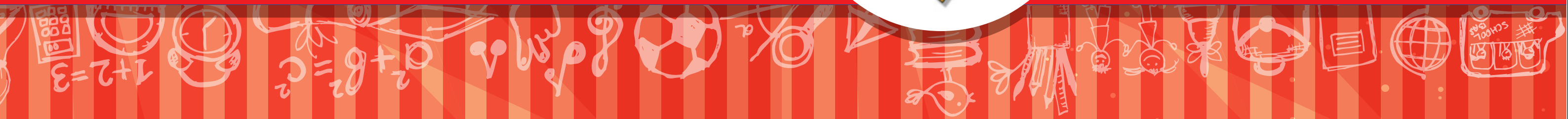
〒432-8021
静岡県浜松市中区佐鳴台3丁目52-23 HARCOMビル 2階
TEL(日本語)／090-9175-8380 TEL(タガログ語)／080-4308-8380
E-Mail : filipinonagkaisa@yahoo.co.jp
URL : <http://filipinonagkaisa.sitemix.jp/>

この進路ガイドブックはホームページからもダウンロードできます。



子どもたちの未来を考える

進路ガイドブック

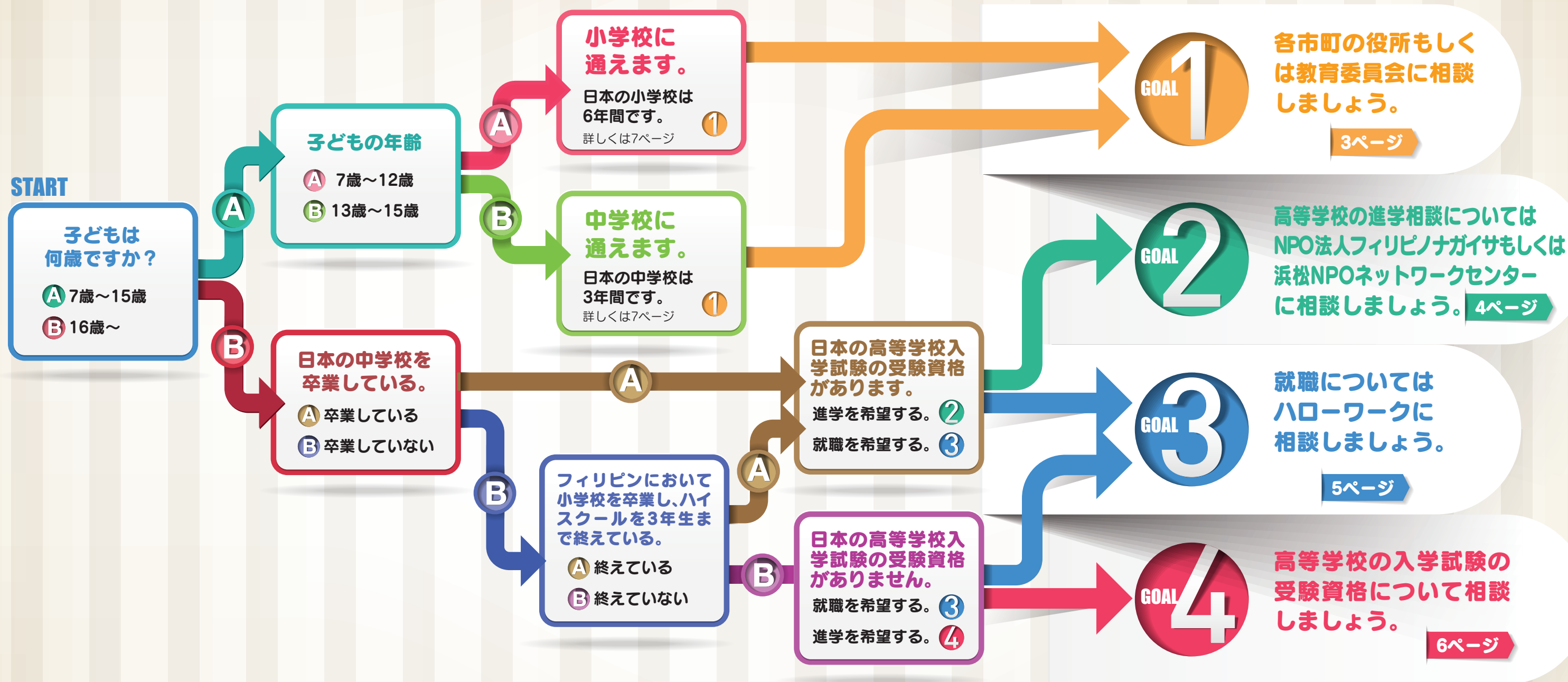


発行 静岡県企画広報部地域外交局多文化共生課

〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6
TEL／054-221-3316,3310 FAX／054-221-2542
E-Mail : tabunka@pref.shizuoka.lg.jp

高校進学フローチャート

高校進学の準備について、どこに相談すればいいんだろう!?
このチャートでチェックしよう!!



15歳前後の子どもを呼び寄せる予定の保護者の方へ!

- POINT!!**
- ① 日本の学校は年齢によって学年が決まります。落第・留年はありません。日本の学校は4月に始まり、3月に終わります。これを年度と言います。例. 2013年度(2013年4月~2014年3月)
 - ② 日本の中学校は3年間。
 - ③ 高等学校の入学資格として小学校を卒業し、ハイスクール3年生まで終えている(9年間の学校教育年数)ことが必要。
 - ④ 高等学校に入学するには入学者選抜試験を受けなければなりません。

例. 呼び寄せた子供が15歳の場合

呼び寄せた子供がその年度に16歳になる場合は中学校には入れません。呼び寄せた年度に15歳になる場合もしくは15歳になった場合は、原則的には中学校3年生の学年に入ります。日本の中学校は3年間なので、翌年に卒業です。卒業後、95%以上の生徒は高等学校に進学します。

保護者体験談 P 3~6下段

進路ガイド

GOAL 1

日本の小学校もしくは中学校に通うことができます。

ご相談はこちら!!

教育委員会へ相談

学校に入学するために必要な準備や相談については住んでいる地域の各市町の教育委員会にお問い合わせください。教育委員会の場所がわからない場合は、役所で確認してください。



鈴木 テディソン さん
学校: 静岡県立高等学校
年齢: 17歳

13歳で来日し、日本の中学校に入学。中学校ではバスケットボール部に入学し、3年生の時はキャプテンを務める。学校裁量枠(※)にて県立高等学校に合格。現在、高校2年生。

Q 学校裁量枠で、高校に入ったと聞きましたが、どんなことをがんばりましたか?

A 学校も部活のバスケットボール部も休まず、ルールを守る事が大事です。とにかくバスケットが好きなので楽しくやっていました。中学3年生の時には、キャプテンに選ばれてとても貴重な経験をしました。学校がこの部活動での経験を評価してくれたと知ったときはとてもうれしかったです。学校裁量枠であっても必ず合格するとは限らないので、日本語や科目の勉強もしっかり勉強しなければなりません。日本語の勉強をしっかりとやっていたので、日常生活で日本語に不自由していませんでしたが、それでも日本語での面接は何度も練習しました。勉強をするときはやらされているという気持ちではなく、楽しく勉強をするという気持ちに変える事が大事だと思います。勉強も部活も楽しくやる事と最後まで努力する事が大切です。

POINT!!

●日本とフィリピンの学校教育年数の違い…



※学校裁量枠について…



GOAL 2

外国において9年間の学校教育を修了しているので、日本の高等学校を受験できます。

ご相談はこちら!!

特定非営利活動法人 フィリピンナガイサ

URL
<http://filipinonagkaisa.sitemix.jp/>
E-Mail
filipinonagkaisa@yahoo.co.jp
TEL(日本語) 090-9175-8380
TEL(タガログ語) 080-4308-8380



特定非営利活動法人 浜松NPOネットワークセンター

URL
<http://www.n-pocket.jp/>
E-Mail
info@n-pocket.jp
TEL 053-445-3717



守屋 まさと さん
学校: 静岡県立高等学校
年齢: 19歳

フィリピンのマニラ生まれ、ハイスクール4年生の時に来日。高校入試まで3か月しかなかったが、浜松市の日本語教室に通い試験勉強。外国人生徒選抜(※)にて県立高等学校入学、現在高校3年生。

Q なぜ日本の高等学校に入学しようと思いましたか?

A 父から日本とフィリピンの二つの文化と言葉を知っておいた方がいいとアドバイスをもらいました。将来のことを考えても日本の方がチャンスがあると言われたからです。

Q 高校に入る前にどんな準備をしましたか?

A 外国人生徒選抜試験では、面接と作文があるので、日本語で話すこと、書くことを勉強しました。来日当初は日本語の日常会話が少しできる程度だったので、試験までの3か月間は一生懸命に勉強しました。

POINT!!

●日本とフィリピンの学校教育年数の違い…



●日本の高等学校や大学、専門学校の学費…



※外国人生徒選抜について…

保護者の声 1

保護者: 松山デシリイさん
富士市在住 レストラン経営



20年ほど前に来日。9年前に3人の子どもを当時20歳・19歳・12歳で呼び寄せた。20歳と19歳の子どもは富士市内の日本語の専門学校(2年コース)を修了後、日本の大学を卒業した。現在社会人。12歳の子どもは日本の中学・高校・専門学校を卒業し、現在調理師。

Q 12歳のお子さんの来日当時の問題は? それにどのように対応しましたか?

A まったく日本語ができなかったのです。辛かったです。中学では「いじめられている」と本人は思っていたようですが、私は冷静に見て言葉が分からないゆえの思い込みもあったのではないかと考えています。言葉が分からなければ話し合うこともできません。他人を責める前にまず言葉を習得するべきだとアドバイスしました。そのために家庭教師も付けましたし、塾にも入れました。また、富士市国際交流ラウンジに相談をしたり、学校内で特別に支援を受けられるようお願いもしました。

Q 19歳と20歳のお子さんに就職ではなく進学をすすめたのはなぜですか?

A 日本での将来を考えたら大学を卒業することが大事だと思ったからです。残念ながら外国人には外国人だというだけでハンデがあります。また私自身が日本で生活していくなかでフィリピン人に対する偏見も感じていたので、世間の間違ったイメージを変えていきたいという思いもありました。

Q 3人の子どもに高等教育を受けさせるのは、経済面で苦しくはなかった?

A それは確かに大変でした。大学の情報は当時通っていた日本語の専門学校で教えてもらったのですが、外国人のための特別措置がある学校もあります。年間の授業料が通常の40%~50%ぐらいになるところもありました。正しい情報を得ることが本当に大切だと思います。

Q 親として一番大事なことはなんでしょう?

A 自分自身の長期的な目標をきちんと立て

ることです。最終的にどこに住むのか、まずそれを決めなければなりません。最終的に日本に住むつもりなら日本で勉強したほうが良いと信じています。勉強は将来のためなのだから。いつかフィリピンに帰るのであれば子どもはフィリピンに残すという決断も必要なのかもしれません。確かに家族と一緒に過ごすことができずにはとても辛いことですが…。いずれにしても、子どもを学校に通わせることは大変なことだから、真面目に考えるべきです。そういう親の姿勢を子どもは見ているのですから。

GOAL

3

就職については各市町のハローワークや静岡ジョブステーションに相談しましょう。

ご相談はこちら!!



ハローワーク

仕事を探している人に仕事を紹介する国の機関です。静岡県内に18か所あります。雇用保険、職業訓練、就職の相談もできます。

静岡ジョブステーション

仕事についての相談ができる静岡県の機関で、沼津、静岡、浜松にあります。仕事の紹介、職業適性診断、就職活動の進め方、書類の書き方、面接の対策など、様々な相談ができます。



アルメリア リナさん
学校：静岡県立高等学校 卒業
年齢：19歳

高校卒業後、ハローワーク(*)を利用して介護の仕事を探し、現在、正規職員として勤務。

Q ハローワークに行ってから仕事を始めるまではどうでしたか。

A 高校の先生の紹介で、ハローワークに行きました。初めに3つの会社を見学に行ったけれど、どれもやりたいことと違っていました。今の会社を紹介されたとき、子どものころ医者になりたかったので、介護の仕事は面白いかもしれないと思い、研修を受けることを決意しました。研修は難しく大変だったけど、1か月しっかり勉強して仕事を始めることができました。

Q 現在の仕事はどうですか。

A 利用者さんの家を訪ねて、買い物や掃除の手伝いをしてあげたり、お風呂に入れたりしています。一日4件ぐらい回る時もあります。今後もっといろいろな勉強してキャリアアップしたいと思います。

POINT!! ●職業訓練ができる場所 ●就職に役立つ資格・情報 ※ハローワークについて... 10ページ

GOAL

4

学校教育年数が足りていないため、このままでは高等学校へ進学できません。下記に連絡して、受験資格について相談しましょう。

ご相談はこちら!!



特定非営利活動法人 フィリピンナガイサ

URL
<http://filipinonagkaisa.sitemix.jp/>
E-Mail
filipinonagkaisa@yahoo.co.jp
TEL(日本語) 090-9175-8380 TEL(タガログ語) 080-4308-8380

特定非営利活動法人 浜松NPOネットワークセンター

URL
<http://www.n-pocket.jp/>
E-Mail
info@n-pocket.jp
TEL 053-445-3717



リチャード ジェイコブさん
年齢：20歳

フィリピンのハイスクール3年生15歳の時に来日。日本の中学校に編入して高校へ進学するつもりだったが、年齢的に条件が合わないことが判明。そこでフィリピンのハイスクールを卒業するために一時フィリピンに戻り、卒業後再来日。

Q ハイスクール卒業後、なぜ日本にもう一度行こうと決心したのですか。

A 自分の将来を考えたとき日本で生活した方が今後のチャンスがあると思ったからです。それに家族と離れ離れで生活するよりも一緒に生活したいという気持ちもありました。1回目の来日時は年齢的なことで日本の中学校に通えず残念でしたが、代わりにフィリピンでハイスクールを卒業してからもう一度日本に来ることを決めました。日本での生活を良くするためにも、ハイスクールを卒業した方がいいと思いました。

Q 現在は何をしていますか。

A 民間の日本語学校で週5日勉強しています。その後は準備教育課程(*)を経て、日本の大学や専門学校に編入することも考えています。もっと勉強して日本語能力検定試験N2やTOEICにもチャレンジしたいです。日本でもっとスキルアップしていきたいです。

POINT!! ●日本とフィリピンの学校教育年数の違い... 7ページ ●日本の中卒・高卒資格を取るには... 9ページ ●準備教育課程について...

保護者の声 ②



保護者：コハツ パメラさん

2008年に家族で来日。当時娘二人は13歳と11歳。来日後すぐに公立中学校1年生と小学校5年生に入学させた。現在長女は高校3年生で大学や専門学校へ進学予定。次女は高校1年生。

Q 日本の小学校、中学校、高校に子どもを行かせて、大変なことはありましたか

A 最初はいろいろ不安でした。特に長女は既に中学生だったこともあり、来日当初はなかなか馴染めず心配しました。本人も学校をやめたいと思ったことがあるようで、その都度あきらめないように励まし続けました。子どもに日本語を勉強させる必要性も感じていたので、週末は日本語教室にも通わせて、日本語を勉強できる機会を作りました。学校生活にかかる費用の面では、中古の制服やカバンをもらうこともできるし、家の近くの学校なら自転車で通うこともできます。中学校卒業後は学校が奨学金を紹介してくれたので、必要なものを初めから全部そろえることができ助かりました。いろいろな制度やサポートを利用すれば、日本で学校に行かせることは決して難しくないとおもいます。

Q 他の親へのアドバイスをお願いします。

A とにかく子どもの話をよく聞いて、よく話し合うこと。子どもが不安なときは、いつでも助けになってあげてほしいです。勉強は将来のため、夢を叶えるために本当に必要ですから。

インタビュー動画

このガイドブックに掲載されている全てのインタビューの動画は、下のQRコードからアクセスするか、フィリピンナガイサのホームページからご覧いただけます。



<http://filipinonagkaisa.sitemix.jp/>

学校制度の違い フィリピンと日本の就学年数の違い

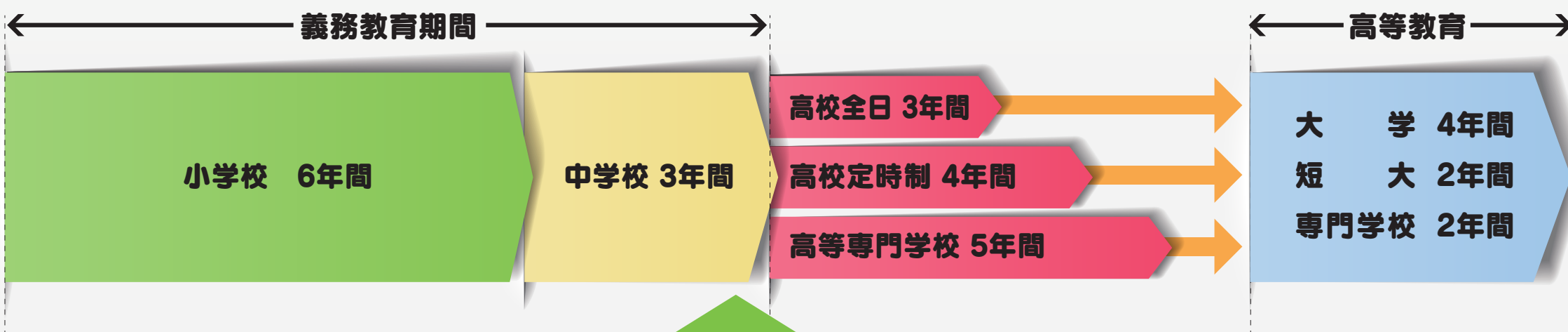
フィリピンの教育年数



フィリピンでは、2012年から新たな教育制度が導入され、今まで基礎教育は10年(初等教育6年、中等教育4年)でしたが、2年延長されて12年(初等教育6年、中等教育6年)となりました。詳しくは、フィリピン教育省ホームページをご覧ください。
<http://www.deped.gov.ph/>



日本の教育年数



フィリピンと日本の教育制度の違い

小学校・中学校・高等学校の教育年数

日本：小学校6年間、中学校3年間の9年間が義務教育。その後、高等学校が3年間です。
 フィリピン：2012年の教育制度改革により、年数が変わっています。

2011年まで... フィリピンの小学校6年間、ジュニアハイスクール4年間の合計10年間が基礎教育期間

2012年から... フィリピンの小学校6年間、ジュニアハイスクール4年間、シニアハイスクール2年間の合計12年間が基礎教育期間。*2018年までに徐々に変更していく計画です。

詳しくは、*フィリピン教育省のホームページへ <http://www.deped.gov.ph/>

学校へ行く時間帯

フィリピンでは午前か午後のどちらかに学校に行く2部制を採用している学校もありますが、日本の小・中学校は1部制です。午前から午後まで学校に通います。

通う学校について

日本の公立学校では、子どもが通う小学校・中学校は学区によって決められています。地域にもよりますが、公立の小学校・中学校が多いため、多くの生徒は学区に従い、公立の小学校・中学校に通います。日本の公立学校と私立学校の学力差は一部を除き、さほど大きくありません。

日本の高等学校進学について

高等学校の入学選抜について

日本の高校に入るには入学選抜試験を受けなければなりません。試験は全て日本語で出題されます。高い日本語力が必要になります。

詳しくは...

高校の種類

学習する時間によって3つの種類があります。
全日制: 午前から午後まで学校に通います。
定時制(学年制、単位制): 夜間、学校に通います。
通信制: 自分で時間を作り、主に自宅で学習を進めます。

日本の大学・短大・専門学校について

大学: 幅広い教養と専門知識を学びます。通常4年、医学部などは6年です。
短期大学: 一般教養と専門知識を学びます。通常2年で医療系は3年です。
専門学校: 職業教育を行います。通常2年で、医療系は3~4年です。

* 大学や短期大学への進学には **12年間の学校教育を修了している必要があります**。2011年までのフィリピンの教育制度ではフィリピンのハイスクールを卒業して来日しても、2年間教育年数が足りないため、日本の大学や専門学校に進学できません。進学したい場合は高卒認定試験に合格するか、日本の高校に入学して卒業するか、**準備教育課程**(*)のある学校で充足しなければなりません。

* 準備教育課程について...

進学アドバイス

●高等学校卒業までの授業料、教科書代、諸費、給食代(定時制のみ)などの合計金額 ※平成25年度の例

公立学校 全日制	公立学校 定時制	私立学校 全日制
1年目 200,000円	1年目 120,000円	1年目 620,000円
2年目 150,000円	2年目 100,000円	2年目 370,000円
3年目 150,000円	3年目 100,000円	3年目 370,000円
	4年目 100,000円	
合計 500,000円程度	合計 420,000円程度	合計 1,360,000円程度

※1年目は、入学検定料、入学料、制服代、施設代などが発生します。上記の金額にはこれらの費用も含まれています。
 ※定時制(単位制)と通信制の場合、選択した科目の数や種類により、教科書・教材費は異なります。
 ※上記の金額はおおよその金額です。詳しい金額は各高等学校にお問い合わせください。

●その他にかかる費用

修学旅行費、部活動費、通学費がかかります。詳しくは進学を希望する学校に確認してください。

●奨学金

高等学校を卒業する見込みがある生徒に対して学費を貸してくれる制度です。家庭の収入額や成績、在留資格などの条件があります。社会人になったらお金を返さなくてはなりません。奨学金については、県の教育委員会を確認してください。

●公立高等学校の入学選抜

●一般選抜

一般選抜には「共通枠」と「学校裁量枠」があります。
 「共通枠」での選抜では、「調査書」、「面接」、「学力検査」の3つの資料を使って行います。
 「学校裁量枠」は部活動での実績や生徒会活動などを重視した観点から選抜されます。詳しくは中学校の先生もしくは県の教育委員会に確認してください。

●特別選抜

実施する高校が決まっています。一般選抜と同じ日に行うので、一般選抜と併願することはできません。
 「外国人生徒選抜」、来日して3年以内で、保護者と住んでいる外国籍生徒が対象です。選抜方法は、「調査書」、「面接」、「日本語基礎力検査(基礎的な学力を測る問題を含む)」、「日本語能力と学校生活への適応に関する所見」の4項目です。平成26年度の実施校は、浜松東高等学校、遠江総合高等学校、江之島高等学校、新居高等学校、小笠高等学校、横須賀高等学校、裾野高等学校、富士市立高等学校、駿河総合高等学校。詳しくは、県の教育委員会に確認してください。

●中卒・高卒資格を取るには

●中学校卒業程度認定試験

合格すると、日本の高校の受験資格が得られます。科目は、国語・社会・数学・理科・英語の5教科です。日本国籍でない場合、ふりがな付きの試験問題が使えます。
 試験は11月頃で、静岡県では静岡市で行われます。

●高等学校卒業程度認定試験

合格すると、日本の大学や短大の受験資格が得られます。就職、資格試験等に活用することができます。試験は年2回、8月と12月にあります。

●準備教育課程(大学・短大・専門学校への進学)

大学や短大、専門学校に進学をしたい場合、学校教育12年間修了していなければなりません。12年に満たない場合は準備教育課程で学び、充足することができます。静岡県では静岡市の2つの学校で学べます。

就職アドバイス

●仕事を探せる場所

「ハローワーク」

仕事を探している人に仕事を紹介する国の機関で、県内18カ所にあります。 平日8:30 ~ 17:15

●ハローワークでできること

職業相談・職業紹介／就職に関する相談／無料セミナーの案内／仕事の紹介

●外国人雇用サービスコーナー

日系人等、日本語が理解できない外国人求職者の方々でも、安心して職業相談が受けられる窓口「外国人雇用サービスコーナー」を静岡県内の7つのハローワーク(沼津市、富士市、静岡市、清水市、掛川市、磐田市、浜松市)に開設しています。沼津市と掛川市では英語の通訳者を配置しています。

「静岡ジョブステーション」

仕事についての相談ができる県の機関で、沼津、静岡、浜松にあります。仕事の紹介、職業適性診断、就職活動の進め方、書類の書き方、面接の仕方など、様々な相談ができます。 平日 9:00 ~ 17:00

●職業訓練ができる場所

テクノカレッジ 静岡県立技術専門校

沼津、清水、浜松にあります。技術と専門性を身に付け、即戦力となる技術者を育てます。若年者コースには、機械技術科や建築科などがあります。入学試験は数学と面接で、授業料は年間118,800円です。また、浜松では外国人向けの短期コースで、パソコン技能習得科、就業準備訓練科があります。

日系人就業準備研修

日本語のコミュニケーション能力の向上に加え、日本の労働法令、雇用慣行、労働・社会保険制度などに関する講義や実習を行います。3~6ヶ月間で120時間あります。
 詳しくは各地域のハローワークまでお問い合わせください。

●進学・就職に役立つ資格

日本語能力試験

日本語能力を認定する検定資格です。N5からN1まであり、N1が一番難しい試験です。年2回、7月と12月に試験があります。N1とN2の合格者は「中学校卒業程度認定試験」の国語の試験が免除されます。N2以上があると就職や進学に有利です。海外にある日本の企業に就職するチャンスも広がります。

日本漢字能力検定試験

漢字能力を測定する技能検定です。10級から1級まであります。1級が一番難しい試験です。年3回試験があります。高校や大学の入試で、評価に使われることがあります。日本語能力を証明する1つになるので、級を取得しておくことで就職にも有利です。

実用英語技能検定(英検)

英語に関連する検定としては日本では最も長く行われている英語の試験です。5級から1級まであります。1級が一番難しいです。年3回試験があります。高等学校、大学、大学院などでは、入学試験や単位の取得に際して英検の取得級が考慮に入れられる場合があります。

TOEIC (Test of English for International Communication)

英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。年に9回あります。730点以上取得すると高い英語運用能力があることの証明になり、就職にも有利です。